



月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

92.7.13 No. 3625

新たな闘いの 方針決定! 第28回臨時委員会

全解雇者の原職復帰-JR体制にトドメを!

動労千葉第二十八回臨時委員会が七月十日午後一時から労働者福祉センターで開催された。今委員会は、五月二十八日中央労働委員会から提示された清算事業団労働者への解決ならざる「解決案」と、六月二十五日の千葉地方裁判所でなされた清算事業団裁判と第一波スト公労法解雇裁判での反動判決に対する今後の闘争方針を中心に、PKO協力法案可決・自衛隊のカンボジア派兵情勢での労働運動の進め方、JR体制への反撃の闘いなど重要な闘いの方針を確認した。

夏季物販大づめ 真価を發揮しよう

委員会では、議長に新小岩支部の鎌形君を選出したのち、中野委員長があいさつを行った。(別掲)

田中書記長の経過報告・方針の一括提起に続いて、協販部から高石さんがあいさつした。高石さんは、物販も大づめをむかえこれからが真価の時、組織内はもとより地域へどんなに出してほしい、もうひとふんばりがんばろうと決意こめて物販活動の成功にむけて訴えた。

そして質疑討論に入った。
(木更津) 五五才出向問題について、次期大会で「出向者協議会(仮称)」の結成と出されているが、もっと早急にやった方がよいのでは。職場の改善点について、当局が組合員の声をきかずに一方的にやることが多い。

(銚子) 六月二十五日の判決で、司法の反動化のなか七名が勝ったことの意味は大きい。組合員も力強く感じているのではないか。第二波ス

トの解雇者はどうなるか、また七名の復職はどうなるか。
(総武) キヨスク型直営売店の廃止が言われているがどうか。
(幕張) ついに構内で限定免許の人の事故が起きた。限定免許の養成はどうなっているのか。
(千葉転) ダイ改以降のべ四名の病欠が出ている。腰痛や首のコリなど勤乗の改善のせいではないか、徹底して闘うべきだ。

(勝浦) 勤乗の問題点がまだまだ掘り起こされていない、もっと取り組みを。
(いすみ) 支部は全員出向者だが、「出向者協議会」との関係は。
(佐倉) 昇給昇格制度の改善を。

対JR闘争の高揚こそ一切の解決の道

委員長あいさつ(要旨)
時代は歴史的転換点をむかえ、右に大きくカジをきろうとしている。われわれは何をなすべきかが今問われている。PKO法案の成立で、自衛隊がアジアに出兵しようとしている。労働運動の柱である再び戦争を繰り返すという誓いが、問われている。参院選は日本の今後の動向をきめるという認識が重要だ。新たな局面をいまむかえている。
八十年代の中曾根の戦後政治の総決算の中心に国鉄分割・民営化があった。戦後的あり方・しくみを破壊し、総評・国鉄労働運動を破壊しようとした上にPKO情勢がある。
中労委の「解決案」は国労・動労千葉に屈服を強いる、ぶつつぶす宣言に他ならない。千葉地裁の反動判決も、七月一日の最高裁の成田治安法の「合憲」判断や教科書には自衛隊の存在と自衛権を認める中身が出てきた。このようにPKO法はあらゆる反動を激変させている。
この背景には、世界の激動、経済の危機、民族紛争など戦争がしやすいこと、さらには貧富の

(事務分科会) 現業のほう为非現業より休暇が少ないのはおかしい。誕生日などを休暇にする取り組みを。
(新小岩) 地区労が解散するなかで新たな国鉄闘争の共闘組織をつくり、集会など行ってきた。今後も継続・発展させていきたい。また新小岩地区の基盤整備が行われているが、現場の意向の反映を。
(営業分科会) 七月十八日に第二回定期委員会を開催する。
執行部から答弁ののち、中野委員長がまとめを行い、「PKO法案強行成立弾劾! 自衛隊の海外派兵阻止にむけた決議」と、委員会宣言を採択し、委員会は新たな闘いの方針を決定した。

差が拡大していることがある。
こうした中で、連合のはたした役割は重大だ。帝国主義・資本・企業の手先として自らを表現している。これに対する柱に清算事業団闘争がある。だから判決文にも分割・民営化反対に対する憎しみが込められている。反動判決に控訴したが、今後裁判での論戦や大衆行動を繰り広げていく。甘い幻想をもつことなしに団結をうちかためてやっつけよう。
JRになってもうまくいっているわけではない。敵も追いつめられている。分割・民営化政策は破綻している。彼らの責任を追及しなければならぬ。動労千葉こそが、責任を追及し、苦しみ、怒り、うらみをはらす権利をもっている組合だ。本格的な闘いにちあがろう。
七名の勝利は重要なこと。これをきっかけに物販など拡大していこう。さらにJR体制との対決をやりぬこう。対JR闘争の高揚がくりだされたとき、一切の解決の道が出てくる。今年が節目の年。これからともががんばりぬこう。